

総務常任委員会行政視察概要

令和6年11月6日(水)

於 委員会室

午前10時～午前11時30分

1 調査概要

「いわた高校生まちづくり研究所について」

磐田市企画部政策推進課総合戦略グループ課長補佐
企画部政策推進課総合戦略グループ主事

磐田市では、まちづくり人材育成事業の一環として、高校生が市の設定した研究テーマについて調査・研究し、研究成果を企画提案として発表することで、将来のまちづくりを担う人づくりを目指すとともに、市政への参画意識の向上や郷土愛の醸成を図ることを目的として「いわた高校生まちづくり研究所」を開講している。始まりは、平成24年度に市が設定するテーマについて調査・研究し、研究成果を企画提案発表する「ヤング草莽(そうもう)塾」を開講した。令和3年度に現在の名称である「いわた高校生まちづくり研究所」へ事業名称を変更し、令和6年度で13回目を迎えている。

参加対象者は市内の高校生で、2～10人程度で構成されたグループ。募集方法は高校への案内や市HPで行っている。

今年度のメインテーマは「わたしたちが考える磐田の魅力向上プランは・・・これだ!」とし、サブテーマである①住みたくなる・住み続けたいまちづくり、②スポーツを活用したまちづくり、③デジタルの力を活用したまちづくり、④環境にやさしいまちづくりの4つの中から選んで、それに沿った調査・研究を行っている。

令和3年度からは外部講師を依頼し、政策形成手法に関する研修の実施・助言、企画提案発表会のコーディネートをお願いしている。市の職員においても、高校生研究グループを応援して、一緒に活動してくれる市職員アドバイザーを庁内掲示板等で15名程度募集している。通常業務以外での活動となるが、企画部だけでなく、こども園教諭、消防、環境、上下水道など、様々な部署の職員にアドバイザーを担

当してもらっている。他にも、大学生をユースサポーターとして5名程度募集している。

年間スケジュールは5月に高校生研究グループ、市職員アドバイザー、ユースサポーターを公募、6月から11月にかけて調査・研究・実証期間を設け、11月下旬に企画提案発表会を実施。12月から1月にかけて提案内容の事業化を検討している。

研究活動費の補助として、1グループ最大5万円を支給している。使用用途は、写真印刷代、旅費、事務用品、郵送料などである。これまで事業化した提案は累計32事業である。具体的な事業の一例としては、磐田市の誇りであるジュビロを活用して、磐田市を全国にPRするため、市内のラーメン店に協力を得て、中身までジュビロカラーの青いラーメンを開発・販売したり、市の子育て支援施設でヤギを飼育し、ヤギに公園や道路脇の雑草を食べてもらって除草を行うなど、高校生だからこそ思いつくような、面白いアイデアが実際に事業化されている。



2 主な質疑応答

問 応募した高校生は全員参加できるのか。また、予算額は。

答 応募者は学年問わず全員参加してもらっている。予算額は15万円である。

問 この事業に対する課題は。

答 学校との連携が必要な事業であるため、学校の先生や保護者の理解が大切である。13年目を迎えることで高校にも定着しており、部活として取り組んでいる学校もある一方、担当の先生が変わる学校もあるので、先生に理解してもらえよう、学校にはできるだけ足を運んで打ち合わせ等を行っている。

問 高校生のモチベーションを上げる要因は何か。

答 アドバイザーや学校の先生の支援が大きい。生徒に詳しい学校の先生と行政に詳しい市の職員が連携して生徒たちを盛り上げている。市長も第1回目の集まりの際に高校生に対して熱いメッセージを送っている。

問 提案から政策決定までをどのようにするか。

答 発表後、政策推進課で取りまとめ、各事業を実際に行う担当課で調整する。事業化できるものは市長に伺いを立て、提案した高校生も手伝ってもらえるよう巻きこみながら事業化している。

問 参加した生徒が学校内で発表を行ったりするのか。

答 学校の授業でこの取り組みを取り入れている学校もあり、学校内で発表を行っているところもある。調査についても学校でアンケートを取ったりするなど、参加していない生徒に対してもどんな取り組みが行われているか分かるようになっている。

以上